

教育委員会 平成26年度 12月定例会の概要

- 日時 平成26年12月17日（水）
9時30分開会 10時55分閉会
- 場所 鎌倉市役所 講堂
- 出席委員 山田委員長、下平委員、朝比奈委員、齋藤委員、安良岡教育長
- 傍聴者 2人
- 本日審議を行った案件
 - 1 報告事項
 - (1) 委員長報告
 - (2) 教育長報告
 - (3) 部長等報告
 - (4) 課長等報告
 - ア 鎌倉市立大船中学校改築工事請負契約の締結について
 - イ 歴史的風致維持向上計画の策定に向けた取組状況について
 - ウ (仮称)鎌倉歴史文化交流センターの整備状況について
 - エ 行事予定(平成26年12月17日～平成27年1月31日)

山田委員長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより12月定例会を開会する。

本日の会議録署名委員を朝比奈委員にお願いする。

後ほど、課長等報告で「歴史的風致維持向上計画の策定に向けた取組状況について」及び「(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの整備状況について」があるが、この件について、事務局から市長部局の歴史まちづくり推進担当職員を出席させたい旨の申し出があったので、これを了承し出席させている。

1 報告事項

(1) 委員長報告

山田委員長

今年も後2週間となり、師走は師匠が走り回るほど忙しいというが、師走に限らず、師匠は走り回っていて、いつもこの時期になると大掃除のことを考えて、もっと気候のいい時期に早目にやっておけばよかったと、後悔しながらばたばたとしている。

今月は、先月に引き続き、研究発表会等にそれぞれ委員が行ったので、ご報告させていただく。まず、21日の御成小学校に、下平職務代理と朝比奈委員、齋藤委員が伺ったのでご報告をお願いしたい。

下平委員

御成小学校で開催された研究発表会に伺った。授業風景を見学した際、ドアのないオープンなスペースでの学習で、先生方は集中力を保つのにご苦労もあるというお話だったが、だからこそ、先生方お一人お一人が児童をきゅっと引きつけるような努力や工夫をなさっていることが分かった。児童たちは比較的集中して、先生方を見て授業に臨んでいる落ちついた姿が感じられて、ご苦労の賜物かなと思った。

さらに、研究発表会のテーマが「互いに認め合い、関わり合う子の育成」ということで、先生の発表の中にも、特に聞く力を育てようと、先生方が話し合いを重ねて、生活習慣のルールをしっかりと整えながら生徒たちの集中力を高め、そして認め合える、関わり合える、そういう子どもたちを育てているという様子が非常によく分かった。

その後、講演会で、元校長先生の宮澤先生の非常に明るいきいきとした講義を伺ってきた。知ってみたいとか、やってみたいとか、そういう「たい」という願望、好奇心を引き出すような、プロの愛のある授業をテーマに、いろいろ勉強になるお話を伺えて、非常に私も参考になった。

齋藤委員

お互いに認め合い、関わり合うというテーマだったが、本当にそれをどのクラスにも感じられた。ここでは国語と算数、また自立活動という面に取り組んでいて、人の話を聞いて考えて、発表して、またそれを聞いてという循環のよさを授業の中に表していたと感じた。

それぞれのクラスの授業は、国語も算数も、どのようにしたら子どもが深く考えていくかなということを研究された工夫が感じられた。そのおかげで、子どもの思考が非常にいい方向に導かれて、のびのびと発表する姿がとても新鮮に感じられて、生き生き学習している、考えていると思った。板書も上手に、ポイントを書いてあるカードを張り、目に見える学びを深める手だてとして工夫されていて、研究のすばらしさを感じた。

講演会は、本当に子どもの目が輝く授業のヒントだったので、多数参加されていた先生方が目を見開いて、心開いて、改めて取り組んでいけるような、現場に合ったお話だったなという印象を持った。

朝比奈委員

オープンスペースの教室は、ああやって研究授業でよそから先生方がいらっしやったりするときに、拝見しやすい。児童の皆さんも、普段からオープンのところ学んでいるせいか、廊下に人がいたとしてもあまり気にしないで、授業に集中しているように見えた。それも昨日、今日のことではなくて、どうやら研究授業の成果の一つでもあるようで、これに取り組む前は、外に誰かがいると集中力を欠いてしまう子もいたのではないかと思う。そういったことは、我々が伺った限りでは一切見受けられなかった。よそから見学者があったとしても動じないで、授業に集中しているかのように見えたのが、すばらしい成果を上げていること

なのだと思った。

建物の設備も、なかなか贅沢にできていて、そろそろ寒い時期だったように思うが、決して教室は寒々とした感じもなく、明るく授業ができる。そういう点でも、御成小学校はすばらしい学校だと感じた。

最後の講演は、校長先生でいらした宮澤先生が非常に楽しく、私も人前でお話しするお仕事をよくさせていただくので、早速お話のなさり方を参考にさせていただきたいなど感激した次第である。

山田委員長

28日には、富士塚小学校の研究発表会に下平職務代理と齋藤委員と私とで伺った。

研究のテーマは、「分かる喜びを共に」ということで、算数に特化して、子ども同士の学び合いを感じる工夫をどのようにしているか、いろいろなクラスで拝見した。講師の先生もおっしゃっていたが、算数というのは一つの解答に対して複数のアプローチや考え方がある、そこが算数のおもしろみだと思う。私も、ピザの面積を問うクラスで、思わず一生懸命式を立てて計算して、ほかの子どもと一緒にかななんて見てしまったが、改めて大人でも引き込まれるような楽しみがあるなど感じた。分かる喜びを再認識した。

学び合いというのは、一見よく聞こえるが、うまくいかないと、どうしてもおしゃべりに終わってしまったり、授業の收拾がつかなくなってしまうことも多いので、教師のファシリテーターとしての手腕が非常に問われる。普通に授業を進めていけば淡々と進むところを、あちこちで崩れてしまうケースもあるようで、その辺は、より教師の力が問われるなど感じた。

発表会后に先生の講演があり、長い教師生活、校長先生もされて、それに基づいた具体的な、いろいろな身の回りの算数の題材を使って、子どもたちが自分から発見して考えるということを提示してくださった。それ自体もとても興味があったが、中には、子どもとの接し方で、親や親戚が過度な期待をしてしまって、それが子どもを追い詰めるケースが多いということで、そのあたりは本当に考えさせられるものがあった。

このように、外部の視点から授業展開をつぶさに見ていただいて、その都度ご助言をいただいで改善していくという研究発表会は、非常に意義あるものだと改めて感じた。

下平委員

今回の富士塚小学校は、「分かる喜びを共に」というテーマで、各先生方がいろんな興味を引く工夫をしていらして、そもそもの教室の集中力とか、先生と生徒の間のエネルギーのキャッチボールとか、そういうものができているところは、効果が上がっていると分かった。これはどんな仕事でも同じだと思うが、ベースのところをしっかりできてこそ、様々な技法が生きると改めて勉強させていただいた。

子どもの意欲と自己肯定感を育てるというのは、子どもだけの世界のことでなく、私たち人間が意欲を持って、自己肯定感を持って、生き生きと生きていくために、分かったとか、そうだとか、そういう瞬間がすごく大事ななど改めて感じた。

明確な目標を持って、そして自分に責任が与えられて、そういう自覚が高まることによって、人間は、こうだったんだ、ああだったんだという気づきが起こると思うので、どんな人

間にも明確な目標意識というのか、期限意識とか、いつまでに何を掴まなければ、発表しなければみたいな、そういう感覚が人間にとってすごく大事なんだと感じた。

私もあのように教えていただけたら、もっと算数好きになっていたのと思うような、先生方の工夫が生きていて、すばらしかったと思う。

齋藤委員

「分かる喜びを共に」というテーマで、討論のある授業、それを意識したことで授業展開がしやすくなったと、成果として上げていらした。それから、課題に合わせた授業形態を工夫するようになったことや指導法の改善に役立ったことが先生方の成果として上げられて、後で冊子を読んだときに、それは非常に印象深く受け取ることができた。

子どもの学び合いと教師の学び合い、いわゆる学習内容と、学習の方法、また、どんな意見を出させるかということが、非常に大事にされていた。算数だけに限らず、いろんなところで考え、自分の意見を言っていかなきゃいけない。そういうことが、この算数も通しながらできていたのではないか。

いつも感じるのは、みんなで目標を持って前進する、目標を持って取り組んでいくということは大きく成長することで、子どもも学びがあり、教師も成長していく、だから、共に育っていく、そしてすばらしい教育ができると改めて感じた。

山田委員長

今月に入って9日には、関谷小学校に下平職務代理と齋藤委員、私で伺った。こちらは、住宅地の中の静かなところにあり、門と昇降口と校庭の配置がとてもよく、子どもの安全管理がしやすい学校だと思った。山の向こうに住宅の開発が進んでいるので、もしかしたら大きな生徒数の変動があるかもしれないという状況だった。

学校に入って感じたのは、寒くなってきた日でもあったので、大型のストーブが故障しているのか使わないのか、とにかく非常に寒い。これは何とかしてあげたいなという感じがした。そのせいか、児童がダウンジャケットを羽織っていたり、帽子をかぶっていたり、ネックウォーマーをしていたりと、とても授業風景にはふさわしくない。それは、身だしなみの観点からもしっかり指導してほしいと思った。しかし、それを着なければいけないほど寒い気持ちも多少分かったりして、この辺は工夫ができたらと感じた。それから、服装だけでなく、床にいろいろなものが散らかっていたり、雑然とした雰囲気が全体に見受けられたりするのも気になった。

一方で、校長先生、教頭先生は非常に学校全体を温かく見守っていらして、教師の方々も、支援の必要な児童も、いつでも先生のところに行けるような温かい雰囲気があって、それがいろいろところで、いい学校運営につながっているという事例は拝見した。

あと、放課後教室の位置が動線的に難しいというか、下校した子どもと学校に残っていた子どもとの差別化が難しいということで、たまに大きな子どもの声が聞こえて、まだ下校していなかったのかと思うと、そちらにいたということで、こちらに関しても工夫が必要なのかもしれないと感じた。

下平委員

重なる部分もあるが、住宅地が4月にオープンするのかどうか、住宅業者としては、新しい小学校に4月から入ったほうがいいですよということで、恐らく完成を急ぐんだろし、そうすると急激に児童数が変わったりして、校長先生も頭を悩ませていて、皆さんもそうだと思うが、そこが気がかりだった。

1件、不審者が出たそうで、日ごろから防犯ブザーの取り扱いとか、防犯に関する教育が徹底していらしたこともあって、大ごとに至らずに済んだという報告もあって、それはほっとした。それに関しても、校長先生、教頭先生、手厚くその後の対応をしてくださっているようで、安心をした。

子どもの家に関して、保護者の立場としては、小学校からそのまま子どもの家に行けると移動もなくて安心ではあるが、確かに学校側から見ると、他の児童との関係性で見ると難しい問題もある。これも今後の課題かなと思った。

非常に気になったのは、清掃が行き届いていないし、体操服の袋が雑然と転がっている。先生方の数が少ないのもあるのかもしれないが、それが気になったというのが正直な感想である。

齋藤委員

私も、環境については考えていかなければいけないと思う。関谷小学校全てのクラスがそうであったわけではない。学級が少し落ちつかなくなると片づけはできない。落ちているゴミがそのまま放置されて、教師のほうが、落ちているから拾ってとか、みんなで気をつけましょうという声を一言でも出していくと、自然にきれいになっていく。きれいになっていくと同時に、クラスは落ちついてくる。それは私も経験上、クラスをよくしたいと思ったときに心がけた一つだった。

今現在よく使っている言葉は、「破れ穴の障子の原理」というのがあって、ほんの少し破けていると、その次も破っていく。またもうちょっと見たいかなとなって、ぱりぱりっという。その次はさらにといい悪い状況になっていく。何かがあったときに、すぐそれをふさげば何の問題はない。ということは、障子にたとえた子どもたちの動きだと思う。

そういうところから考えていくと、学校でいわゆるフード付の、スキー場で着るような感じの防寒着を着ている子が、何人かいた。校長先生も、その件については上手に脱がすように指導を入れていましておっしゃっていた。

それにあわせて、ストーブが気になり始めた。改めて関谷小学校のストーブを見たときに、先生たちは気をつけて、やけどをしないように指導していく。やかましいくらいにして、でも子どもが自由に動けるということを考えたら、安全性も考えて、冷暖房完備までいなくても、何か配慮があつていいかなと。でも、私は自然の風が一番だと思っているので、絶えず暖かくしなきゃいけない、冷たくしなきゃいけない、そういう考えでもないが、そんなところを考える学校訪問だった。

山田委員長

皆さんのお話を伺っていて、もう一つ思い出したのが給食で、雑然の源となるのが、もしかしたらめり張りがないことなのかなと思った。

他のところをご案内があつてこちらにとか、あと全員で座ってから手をあわせて、いただ

きますということがあったのに、今回は、いつの間にかみんな食べ始めて、いつの間にか終わっていた。ごちそうさまもなく掃除のために机を後ろに下げ始めて、私も、椅子を移動してくださいと言われて、椅子を返却した。そういった感じで、大したことではないけれども、けじめというか、ここで、お食事を始めよう、終わろうという区切りがあってもよかったと思った。

牛乳を飲み終わった後のつぶす作業も、残った牛乳が花火のように上がっている子もいて、低学年だったし、そんな大げさに言いたくないが、もう少し見渡す時間、余裕があるといいかなと思った。同時に、ひじきご飯と牛乳の食べ合わせは、いつもちょっと違和感があるので、どうにかできないかなとも思っている。

11日に私の家業で先月受け入れた第二中学校のお子さんの職業体験の発表会に伺って、近隣のいろいろな事業所に行った子がどんなことをしたのか、多くの子がクイズを交えて発表していらして、とても楽しく拝見した。

齋藤委員

12月5日金曜日に、芸術館の大ホールで行われた鎌倉市小学校音楽会に参加させていただいた。人数の差がある中で、学校独自の指導者が子どもたちと一緒に考えた曲名とか、様々な演奏形態で行われ、人数に合わせた形で自分たちの力を十分に発揮し、人数じゃないんだということをしっかりと聞かせていただき、見せていただいた。音楽は耳で聞くんじゃないで、目で聞くものでもあると聞いたことがあるが、確かにそういうものを感じさせていただいた。

音楽会に合わせたように、児童作品展が行われていた。その作品展に関しては、全員の作品をきれいに飾って、皆さんに見ていただくということで工夫していたと思う。ただ、もうちょっと広いところで、一つひとつの作品のよさが表れるような展示の仕方ができるといいなと思った。作品のすばらしさを伝えるような展示の仕方をする、ある程度作品を絞っていかなければいけないとも感じたが、意欲的に参加させて、見に来ている保護者の方々もとても幸せそうな顔つきだったので、いい試みの作品展であることは間違いない。

今後、音楽会の反省、作品展の反省、アンケート等をおとりになっていたようなので、その声も聞かせていただけるとありがたいと思う。

(2) 教育長報告

安良岡教育長

平成26年もいよいよ終わりになるが、12月24日が終業式である。2学期は大きな事件、事故もなかった。また、生涯学習、文化財部ともに、年末年始の休業があるが、12月15日号の「広報かまくら」で、それぞれ休館の予定を市民の方には周知している。

国宝館だけは15～31日まで休んで、1月1日から開館。八幡様へ行った帰りに国宝館へ寄ってくれるように道案内ができるといいなと思いつつ、なかなか実現できない状況である。

学校は1月8日が始業式なので、また3学期もよろしくお願ひしたい。

(3) 部長等報告

教育部長

議会が開催中なので、その報告を中心にさせていただくが、懸案であった大船中学校の改築工事の関係は入札が終了し、落札された。今、仮契約の段階になっており、今議会に議案が出ている。通ったら、その後すぐに工事に入れる。4回目の入札で、何とかここまでたどり着いたので、後ほど詳細は学校施設課長から報告させていただく。

それでは、議会の報告は教育部の関係を私から、文化財部について小嶋部長からさせていただく。

12月3日から開会し、5日間で17人の一般質問があった。教育こどもみらい常任委員会は12日に開かれ、教育部を中心に、文化財部ともに質疑があった。文化財部は総務常任委員会にも出席をする。

主な報告事項は、11月の教育委員会定例会で議決をいただいたもの、また、報告した教育委員会制度の改革、保護者の地位の確認等請求控訴事件の判決について、平成26年度の全国学力学習調査の結果、平成25年度の児童生徒の問題行動等の生徒指導上の諸問題に関する調査結果、教育課程の編成指針の策定、それと議会から請求があり、行政財産の普通財産への移管について報告させていただいた。それから、先ほど申した大船中学校の改築の関係もあった。最終日が19日なので、議会継続中である。これから教育委員会関係で特に大きなものはないと思う。

それから、議会の会派が若干変更になった。自由民主党鎌倉と草莽の会が解散して、自由民主至誠倶楽部というのが一つできた。メンバーがそれぞれ動いている。

それから、12月定例会で、教育部関係で幾つか質問があった。教育委員会制度の改革の関係、重点事業として上げている学校の普通教室の空調設備設置の検討状況について、教職員の休職状況、不登校の実態、学校・教育委員会の取り組みの状況についてご質問があった。それから、公共施設の再編計画が進んでおり、これと学校の施設との関係についてのご質問があった。あと何点かあったが、教育部関係の主なご質問は以上である。

それから、12月11日の常任委員会でも、教育委員会制度の改革について、総合教育会議の審議事項や協議の仕方、今後のスケジュール、教育委員会の権限の問題などについてご質問があった。学力・学習調査の関係では、その結果をどうやってフィードバックして活用するのか、児童生徒のバックアップをどうするか等々のご質問があった。それから、教育課程の編成の関係、小中一貫教育の関係で、取り組み例についての詳細のご質問だとか、保護者や地域への周知をどのようにしていくのかというご質問もあった。大船中学校の改築の関係のご質問もあった。

文化財部長

引き続き、文化財部関連一般質問については、4名の方からご質問をいただいた。

郷土愛についてということで、生涯学習センターで開催された郷土芸能大会の参加状況と後継者の育成について。それと、建設常任委員会で尾道の視察をされたそうで、それを振り返って、古民家の商業ベースの活用であるとか、アートカルチャーとしての利用といった伝

統を生かしたまちづくりについてのご質問をいただいた。

また、深沢地域のまちづくりということで、深沢地域における風致維持向上計画の重点地域となり得るのかというご質問。それと、野村総合研究所跡地に計画されている埋蔵文化財センターと、今準備を進めている（仮称）鎌倉歴史文化交流センターとの連携についてのご質問があった。

また、発掘調査終了後の史跡の可視化、目に見えるような形で保存をしてはどうかというご質問があった。

また、鎌倉の歴史郷土資料ということで、長谷にある旧山本条太郎邸の文化財の指定について。あとは、（仮称）鎌倉歴史文化交流センターにおける地震津波災害にかかわる展示。また、学芸員の配置等についてのご質問。それと、平成28年から構想を策定する予定である（仮称）鎌倉博物館の整備についてのご質問があった。

以上が一般質問の主な質問内容である。

あわせて、12月12日の教育こどもみらい常任委員会では、（仮称）鎌倉歴史文化交流センターの収益状況についてご報告をさせていただいた。

昨日の建設常任委員会では、歴史的風致維持向上計画の策定に向けた取り組み状況についてのご報告を。そして、本日、この後の総務常任委員会では、今申し上げた二つ、（仮称）鎌倉歴史文化交流センター整備状況についてと、歴史的風致維持向上計画の策定に向けた取り組み状況についてご報告をさせていただく予定である。

なお、今申し上げた二つの項目については、この後の課長等の報告の中で詳しいお話をさせていただきたいと思う。

（4）課長等報告

報告事項ア 鎌倉市立大船中学校改築工事請負契約の締結について

山田委員長

報告事項のア「鎌倉市立大船中学校改築工事請負契約の締結について」、報告をお願いします。

学校施設課長

大船中学校の改築についてはこれまで事業者が決まらない状況が続き関係者にご心配をおかけしていたが、この度4回目の入札により落札者と仮契約を締結した。4回目の入札は平成26年10月14日に公告し11月11日に開札が行われた。入札の結果は低入札価格調査の対象となる基準価格を下回ったことから落札者の決定が一時保留となったが、入札価格審査委員会の審査を経て12月2日に落札者の鉄建建設株式会社と仮契約を締結した。工事請負契約の締結については、本日契約議案の審査を付託されている総務常任委員会に諮られる。これを経て、工事請負契約の締結の議案を本会議で可決頂いた後、現在仮契約を締結している鉄建建設株式会社と契約を締結し着工することとなる。

工期は550日を考えていて、工程は体育館を校舎等よりも先行して平成28年1月末ごろに完

成させ、現在の2年生が卒業する平成28年3月の卒業式に使用できるようにする。既存の体育館は新しい体育館が完成した後に解体する。新校舎は平成28年6月ごろに竣工させ、7月に引き渡しを受け夏休み中に現在の仮設校舎から引っ越しを行い、平成28年9月の2学期から新校舎で授業が出来るようにする。これまで生徒や教職員の皆様に仮設校舎でのご不便をおかけしてきたが、現在の1年生が3年生になった2学期から新校舎で授業が出来るようになる。

(質問・意見)

山田委員長

この建設会社はどちらの会社か。

学校施設課長

鉄建建設株式会社、第二中学校の改築を請け負った事業者である。

山田委員長

第二中学校は先日も行ったが、今も木の香りが残るととてもいい校舎で、実績があるのは安心だと思う。

(報告事項アは了承された)

報告事項イ 歴史的風致維持向上計画の策定に向けた取組状況について

山田委員長

報告事項のイ「歴史的風致維持向上計画の策定に向けた取組状況について」、報告をお願いします。

歴史まちづくり推進担当担当課長

歴史的風致維持向上計画の策定については、平成26年9月の本委員会において歴史的風致及び歴史的風致の維持向上に資する事業について、具体的な検討を進める旨報告した。本日はその後の取組状況を説明する。

議案集3ページ資料1、「歴史的風致維持向上計画策定スケジュール及び検討状況」を参照されたい。現在歴史まちづくり推進担当では、資料1に記載したとおり、計画の具体化に向けて歴史的風致の具体化、実施すべき事業の具体化、計画書の構成に関する検討を進めているが、国土交通省、文化庁、農林水産省からの指示に基づき、特に歴史的風致の具体化に注力している。この事に関し、議案集4ページ資料2「歴史的風致の具体化に向けた考え方」を参照されたい。歴史的風致の具体化に向けては三省庁との協議や学識者等で構成するアドバイザー会議での意見交換等を踏まえながら、歴史的風致の要素となる歴史上価値の高い建造物や歴史伝統を反映した人々の活動の整理を行ってきた。その結果各時代の背景を踏まえた上で、歴史的風致の具体化に向けた考え方を四つに大別した。

1、中世の時代に武家政権が樹立された後、自然地形を利用して建立された社寺はリビングヘリテージとして今に続く宗教活動を通じ、鎌倉の歴史や文化の基礎を築き上げてきたことから、この方向性に基づき、歴史的風致を検討していこうとするもの。

2、江戸時代に入り武士や町人など多くの遊山客が鎌倉を訪れ、観光地としての役割を担うようになったことから、この方向性に基づき歴史的風致を検討していこうとするもの。

3、室町幕府による鎌倉府滅亡後、鎌倉の地では自然の地形を生かしながら、農業や漁業を営むようになったことからこの方向性に基づき歴史的風致を検討していこうとするもの。

4、明治初期に保養の適地として紹介された由比ガ浜沿岸部は別荘地として発展し、独自の文化が繁栄してきたことからこの方向性に基づき歴史的風致を検討していこうとするもの。

続いて、資料1の「実施すべき事業の具体化」については、歴史的風致の維持向上に資する事業を計画へ登載するため、全庁的な調査を行うと共に、神奈川県との協力を得ながら個別の事業に対する国の支援制度を確認しているところである。

また、「計画性の構成に関する検討」については、本計画書に記載する鎌倉市の社会的環境や自然的環境、歴史的・文化的な特性などについて、文章の作成を進めているところである。

今後の作業としては、三省庁による現地視察を受け、歴史的風致の具体化を進めるとともに、素案の作成に向けて、全体像を組み立ていく。

最後に、11月15日に実施した「歴史まちづくりワールド・カフェ」について報告する。今回のワールド・カフェは、参加者自身の身近にある「守っていききたい風情・趣ある場所」などを市民の方々に再確認してもらうことや、その際にいただいたご意見を今後の取組に反映させることなどを目的として実施した。当日は無作為抽出から参加の意向を受けた20代から70代までの男女25名にお集まりいただき、浄智寺様の書院をお借りして、朝9時から正午まで、熱心な議論を展開していただいた。参加者からは、「大変有意義であった」、「今後も継続的に実施して欲しい」など、ご好評をいただいているところである。歴史まちづくり推進担当としては、進捗状況に応じたテーマなどを検討しながら、機会を捉えて市民の方々による意見交換が出来る場を設けていきたいと考えている。

(質問・意見)

朝比奈委員

この間は、そういう会にご協力できて大変嬉しく思った。

お寺も、800年ぐらい前、鎌倉幕府以降、どんどん環境を変えて発展していつているという考え方もあるので、私たちは、宅地造成に匹敵するような大規模な造成工事の先駆者なのかもしれないが、その裏には、いろんな信仰や思いがあって、今後、お寺の古いものを残すのではなくて、発展していくことも考えなければいけない。そういう方々との話し合いはいつもなかなか難しい部分が多くて、私はそのはざまにあって大変な思いをしているので、ぜひ鎌倉らしい歴史的風致を守っていただきたいと思う。

反面、それをあまりにも意識し過ぎると、暮らしていく上で不都合が生じる。それは崖が崩れるかもしれないとか、道が狭くて大変であるとか、いろんな齟齬が生じることもあると思う。その辺の折り合いも上手につけていって、よその市町と比べても、さすが鎌倉だなと

言われるような、すばらしい考えを広げていっていきたいと思う。そのためには、いろんな方々との情報交換が必要なので、行政だけが主体になって勝手に突き進んではいけないし、市民団体の方々も、中には偏ったお考えの方もいるので、そういう方々との話し合いを深めていって、解きほぐしていって、どこかが勝手に突っ走ることがないような、円満なお話し合いの場をどんどんつくってほしい。

下平委員

資料1で拝見するスケジュールでは、1月に歴史的風致の具体化とか、事業の具体化となっているので、これに関しては具体的なものが、2月ぐらいの教育委員会で少し明確になると予測してよろしいか。

歴史まちづくり推進担当担当課長

確かにかなり具体化はしてきているが、計画全体の中の構成で、どう位置づけていくかといったところも踏まえて公表していかざるを得ないだろうと思っている。そのあたりの素案の作成が5月ぐらいまで続いて、この取組状況の中で、しかるべき時期が来たら報告をさせていただければと思う。

(報告事項イは了承された)

報告事項ウ (仮称) 鎌倉歴史文化交流センターの整備状況について

山田委員長

報告事項のウ「(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターの整備状況について」、報告をお願いします。

歴史まちづくり推進担当担当課長

議案集6ページ資料1のとおり、(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターの整備に係るスケジュールについては、平成27年度末ごろの開館を目途として準備作業を進めているが、平成26年度において、建物の改修及び展示に係る設計並びに建物の用途変更許可に関する事務を中心として取り組んでいるところである。

本日は主に建物の改修設計及び用途変更許可の進捗状況について説明する。

議案集7ページ資料2「(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターの改修工事基本設計図面(案)」を参照されたい。建物の改修については当該建物が著名な建築家であるノーマン・フォスターの設計であることから、可能な限り建物のデザインは変更しないことを基本とし、平成26年3月に策定した「(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターの整備計画」に沿って、展示を効果的に行うための各部屋の使い方や、公共施設として来場者を受け入れるためのバリアフリー化、文化財等の展示に適した空調設備の設置などについて、関係各課と連携しながら、その在り方を検討しているところである。

来場者を受け入れるスペースとして、凡例で示してある通り、グレーで着色した部分を予定しており、A棟1階は主に展示室として、B棟1階は、展示室及び体験スペースとして活

用しようとするものである。また、A棟2階及び地下については管理者の事務スペースとして活用する予定である。今後は建物の現状を踏まえた上で、より詳細な実施設計を行うとともに、工事費用の積算作業を進めていく。

資料の1に戻り、建物の用途変更に関する事務について説明する。当該事業区域は都市計画法に規定する第一種低層住居専用地域内にあることから、設計作業に合わせて、建物の用途変更に関する許可を受ける必要がある。建物の用途変更許可は、周辺地域の良好な住環境を害する恐れがないこと、または公共上やむを得ないと認められることが要件となっており、今後は地元説明会でいただいた意見等を参考にしながら、良好な住環境の維持に向けた対策を検討する一方、今月予定されている周辺住民を対象とした公聴会、来年1月に予定されている建築審査会を経て、用途変更許可を受ける予定である。

なお、展示時に関する設計については、建物の改修設計と並行して検討を進めているが、基本的な考え方としては、出土品などの実物や写真パネルの展示、動画の映写などを組み合わせながら、鎌倉の歴史や文化を分かりやすく伝えられるような仕組みとしていく予定である。

(質問・意見)

下平委員

以前から伺っているが、地元住民の方々の理解は長い期間かけて、話し合いやご意見を聞いて下さっていると思う。皆さん協力的でいらっしゃるのか。

歴史まちづくり推進担当担当課長

そもそもこういった建物を整備すること自体について、大きな反対はない。ただし、こういった静かな住環境の地域に集客施設を設けるということで、周りにお住まいの方は住環境、例えば交通環境、歩行環境、騒音、ごみ問題のご懸念はされている。そういったものに対して、市としてはできることはやっていくというスタンスで臨んでいるところである。

下平委員

引き続きよろしくお願ひしたい。

安良岡教育長

この文化紹介スペースは、どこへ行けば何が分かるか、どこに何があるのか分かるような展示の仕方、つまり鎌倉に来て、どこに行けばいいか、どう行けばいいのか、いろいろ悩んでいる子どもたちも多いようなので、そのあたりは、ここのスペースに用意していただけるのか。

それから、今、子どもたちのお昼を食べる場所がなかなかないので、この建物の中が無理であれば、例えば天気の良い日には庭を使わせていただけるのかどうか。

歴史まちづくり推進担当担当課長

文化スペースは確かにあるが、この建物にまず来ていただいて、その後、現地に行って現物を見ていただくというコンセプトも踏まえながら、展示の内容について検討を進めてい

るところである。ここが拠点となって、鎌倉の文化財を守るというスタンスがとればいいのかなど思っている。

それと、お弁当の関係である。この図面の左上に「B棟」と文字が打たれているところがある。ここに少しお庭的なスペースがある。活用するとしたら、このスペースかと思うが、周辺の方々からは、お子様たちがいっぱい集まると、それなりに声も立てるだろうというご意見もいただいている。ただ、その点は、どこまでご理解いただけるか、あるいは、いらっしやっした小学生に、住宅の中にある建物だから、その辺は理解して使ってほしいという周知をする中で、その可能性については検討していきたいと思う。

齋藤委員

今、建物の中でお食事をと教育長から出たが、天候についても配慮していただけるのか。

歴史まちづくり推進担当担当課長

建物の中だとB棟の体験スペース、会議室と言っている場所ぐらいかなと思う。ただ、このスペースも基本的に体験スペースなので、例えば土器洗いだとか、あと学習会で使用する予定で、仮にここでお弁当を食べるとなったときは、雨が降ってきて行くところがないという事態が想定されるけれども、果たしてそういうときに、タイムリーにこの場所があいているかどうかというのは、なかなか難しいかと思う。

朝比奈委員

「建物改修工事・展示制作委託」に係わると思うが、美術館、博物館的なものを新しくつくるときには展示のセンスが問われると思う。委託というのはコンペか何かで、数社から選ぶのだろうか。

歴史まちづくり推進担当担当課長

展示に関する設計については現在進めているところで、業者については一般競争入札で選定した。ただし、入札の際に、こういった博物館の展示をやったことがある業者と条件をつけて入札している。あと我々文化財課、歴史まちづくり推進担当と、博物館学の専門家のご意見も伺いながら、展示内容を検討しているところである。

朝比奈委員

重要文化財的なものが展示できるようなクオリティの建物、展示スペースになるのか、それには及ばないのか。例えば、鎌倉の芸術館のギャラリースペースは、そういう点で条件が合わないという話を伺ったことがあるが、そのあたりの展示スペースの種類というか、種別は何になるのか。

歴史まちづくり推進担当担当次長

博物館法という法律があって、平成28年度以降に基本構想の検討を開始する（仮称）鎌倉博物館は、この博物館法上の登録博物館を目指していきたい。この文化交流センターについては、博物館法上の規定に則った施設は考えてはいない。ただし、展示スペースについては、

公開承認施設という、重要文化財等を展示する際に、届け出等で許可をとる必要がないというシステムがあつて、そういったところと同等の基準を踏まえながら、設計を委託しているところである。

山田委員長

私も、こちらは何度か前に伺ったことがある。もともと別荘だったということもあり、ちょっと個人的な思いの強い建物だなという感じも受けた。お稲荷さんがあつたり、信仰的なスペースやお茶室がある。これはどうされるのか。

歴史まちづくり推進担当担当次長

この平面図だと分かりにくいですが、A棟の真ん中やや右側に、「休憩コーナー」と書いてあつて、その下の部分が吹き抜けみたな、屋根がない部分なので、ここに何かを展示して、この中に人を誘導することは難しいと思つている。今のところ、特にこの部分を活用することは考えていない。

山田委員長

確かに建物自体は見どころのあるすばらしいものだったと記憶しているし、一方で、そういうものがあつたので、宗教関係の方にもご相談されたほうがいい部分もありそうだなと。プールはふさいで、部屋としてお使いになるのか。

歴史まちづくり推進担当担当課長

A棟の事務室に付随する物置というか、いろいろなものが置けるスペースとして活用する予定である。

(報告事項ウは了承された)

報告事項エ 行事予定(平成26年12月17日～平成27年1月31日)

教育部次長兼教育総務課担当課長

議案集8ページから10ページに記載のとおり、講座やイベントが予定されている。

なお、10ページ一番下に記載のある国宝館は展示替え等で年末は休館するが、1月1日から開館し、特別展「肉筆氏家浮世絵コレクション」を予定している。

(質問・意見)

朝比奈委員

8ページの成人セミナー「よくわかる般若心経と写経体験」は、私の友人の永井和尚が担当している。13日に参加した方の話を伺ったら、とてもよかつたと聞いたので、ぜひ、皆さんに参加していただきたいと思う。

安良岡教育長

公開セミナーの文化財課で行う鎌倉の海浜地域や国宝館の氏家コレクションも、せっかくなのでご紹介していただければと思う。

文化財課担当課長

10ページ下から4行目、公開セミナー「考古学から見る中世都市鎌倉の海浜地域」については、主催が公益財団法人神奈川考古学財団で、今回、鎌倉市教育委員会が主体となって、鶴見大学とともに共催で開催させていただく予定となっている。

このセミナーについては、毎年、主催となっている神奈川考古学財団にテーマを設定していただき、そのテーマに沿った会場を選定した中で開催されている。今年度については、鎌倉の海浜地域というテーマが設定され、学習センターで開催を予定しているところである。

今度の日曜日なので、お時間があれば、ご来場いただければと思う。

歴史まちづくり推進担当担当次長兼文化財部次長

フォローさせていただくと、海浜地域というのは、鎌倉の遺跡の分布を見ると、いわゆる浜という分類があって、そこが庶民の暮らしの場であったり、経済流通活動の場であったり、墓地であることが、これまでの調査で分かってきていて、鎌倉のまちを考える上での一つの特徴を有する地域であると。特に、今回、神奈川考古学財団がここにテーマを設定したのは、一昨年、今現在、警察署が建っているところの発掘調査の中で、鎧等が出土したので、そういったところで注目して、このテーマを設定されたということである。

鎌倉国宝館副館長

先ほどお話しいただいたが、資料10ページの一番下、特別展「肉筆浮世絵の美一氏家浮世絵コレクションー」、この氏家浮世絵コレクション、財団法人の設立であるが、今年度で40周年を迎えて、それにあわせて、今年は通常頒布しているカタログも一新して、さらに展示も、通例だと、保存の観点から40件程度のご案内となっているが、今年は展示外を含めて約60件、ほぼコレクションのオールスターキャストという形で、皆様にご覧いただけるような形で予定している。

一人でも多くの方に、ぜひ同館の展示をご覧いただいて、新春、一年のスタートを華やかな雰囲気でお迎えいただければと思う。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

山田委員長

そのほか、委員の皆様から何かあるか。

下平委員

教育部長から、教育委員会制度の改革について議員の方から質問があったということだったが、どんなふうにお答えいただいたのか、私どももちょっと知っておきたい。

教育部長

教育委員会制度そのものが、平成27年度4月1日で施行されるので、今、鎌倉市で検討している状況と、改革の制度そのものについてのご質問があった。1名の方はそれだけの質問で、もう1名は、教育委員会制度そのものの改正の意図だとか概要から入って、教育委員と新教育長の関係だとか、それから大綱の話もあった。総合教育会議の置き方、そこで議論する内容だとか、かなり詳細な質問があつて、私どももこれから取り組んでいく基礎となるところの考え方についてご質問いただいた。国から示されている範疇でお答えした。

山田委員長

それでは、以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって12月定例会を閉会する。